

## SPP 準備会合の概要

2018年2月9日(金)13時より SPP 準備会合がトレーダーズ・ホテル (32階) において関係国等の参加を得て開催された。8月の SPP 立ち上げに向け、SPP に対する各国の要望等の聞き取りを行った。出席者並びに議論の概要は以下の通り。

(出席者)

- 日本：国土交通省国土交通審議官 吉田光一  
国土交通省国土政策局総務課企画室長 遠山英子
- ベトナム：Mr. Tran Quoc Thai, Urban Development Agency, Ministry of Construction
- タイ：Mrs. Pochanie Kajonpredanon, Director, Department of Public Works and Town & County Planning, Ministry of Interior  
Ms. Wiyada Songkittipakdee, Senior Professional, Department of Public Works and Town & County Planning, Ministry of Interior
- マレーシア：Ms. ROKIBAH BINTI ABDUL LATIF, Director General, Department of Town and County Planning, Ministry of Urban Wellbeing, Housing and Local Government  
Ms. Kamariah Binti Ibrahim, Deputy Director General, Department of Town and County Planning, Ministry of Urban Wellbeing, Housing and Local Government
- ラオス：Mr. Phomma VEORAVanh, Director General, Department of Water Supply, Ministry of Public Works and Transport
- カンボジア：HE. Dr. Pen Sophal, Secretary of State, Ministry of Land Management, Urban Planning and Construction
- ミャンマー：Ms. Aye Aye Myint, Deputy Director General, Department of Urban & Housing Development, Ministry of Construction
- モデレーター：西南学院大学 法学部教授 野田順康

(議論の概要)

### ①開会挨拶

吉田国土交通審議官が、冒頭、経済成長の恩恵をすべての人々に行き渡らせ、「誰一人取り残さない」社会の実現のためには、戦略的な空間計画に基づく「バランスのとれた国土の発展」が不可欠であり、SPP の活動を出席者との連携の下発展させていきたいこと、また我が国が提唱している質の高いインフラはプロジェクトの実施のみならず、計画、実施、管理・運営の各段階を通じて実現されるものであり、最上流に位置する国土計画の策定支援は、質の高いインフラを生み出すサイクルの一環をなすものであること

などを述べた後（参考資料1）、遠山企画室長が SPP の概要（参考資料2）について説明し、これに対して各国がプレゼンテーションした。



## ②マレーシア

SPP の考え方には十分に賛同できる。マレーシアでは国家物的計画(National Physical Plan)として空間計画を策定している。今はモニタリングの進め方について議論しており、そのためのデータベースが課題となっている。SPP のデータも古いのでアップデートしないとイケない。現在の総人口は 31.4 百万人であるが、都市化はかなり進んで 74%となっている。現在の計画では 2040 年においても都市化率を 85%以下に抑える予定である。計画の階層性は、国、州、基礎自治体となっており、州レベルで詳細な構造計画を作っている。現在の第 3 次国家物的計画は 2016 年から 2020 年を対象としているが、今後は気候変動とそれに係る強靱性に着目しつつ、2050 年をターゲットにした検討を進めなければならない。今次のニューアーバンアジェンダ (NUA) や持続可能な開発目標との関連性も議論しており、現行の計画の中に十分取り込んであるので、どのようにマッチングしているかを整理している。都市と地方のダイナミックな成長、空間的持続性と気候変動の関連性、包括的で活性化したコミュニティの開発等に留意して整理している。環境の問題は特に重要で、国土の中央森林帯を保全し、2050 年でも 50%の緑被率を維持して行くつもりだ。そのためにも二酸化炭素の排出を抑える必要があり、自家用車から LRT、MRT 等の公共交通にシフトすることが重要だ。また、開発軸と均衡ある発展のバランスを取ることに留意している。地域毎に様々な課題があるので、全国計画と上手く調整して行くことが重要であるが、基本的に均衡ある発展を目指すことにしており、都市と地方（田舎）の連結性、アクセス性、情報交換に配慮している。（参考資料3）

## ③ミャンマー

都市化率は相対的に低く、現在は 30%程度であるが、2040 年には 40 - 50%になると

予測されているので、それに対応した空間計画が必要であり、空間開発基本計画を草案したところである。7つの地域でどのような都市化が進み、如何なる中心地域が形成されるのかを、開発軸やタイ、中国、インドとの国境都市との関係の中で検討せねばならない。いずれにしても、バランスの取れた開発を進めることが重要であるので、都市と地方（田舎）の連携・連結に重点を置いて、小規模都市開発構想を策定すべく、関連する計画法を草案している。出来れば今年中に議会に提出したい。その他、コロン大学やJICAの協力を得て、計画体系の改善に努めている。（参考資料4）

#### ④タイ

タイの空間計画体系はマレーシアに似ているが、今のところ全国計画はない。出来れば今年中に全国計画を立案したいとは考えている。重要なことは全国6つの地域で開発軸が形成され始めており、全国計画でこれを如何にリンクさせるかと言うことが課題である。特に、隣国に面した地域では10ヶ所の経済特区が形成され、海外直接投資を促している。経済的格差が大きくなる可能性がある。また、このような開発の結果、自然環境の破壊が進んでいる。これまで7割程度は森林におおわれていた地域が、開発によって緑被率が33-34%まで低下してきている。こう言った状況を的確に把握するためにもデータベースは必要と思われる。

#### ⑤ベトナム

ベトナムでも空間計画の呼び方が少し違って、国家都市システム基本計画（Master Plan of National Urban System）と言っている。ベトナムではハノイ、ホーチミンなどの5大都市に人口の70%が集中しており、その他の小規模都市との違いが大きい。813の小規模都市の状況をモニタリングしているが、標準化した対応策を打ち出すことは難しい状態だ。さらには気候変動の影響で、これまで台風の来なかった地域が直撃されると言ったことが起こっており、強靱性の検討が不可欠になってきている。マレーシアが指摘するように、適切にモニタリングして行かないと、飲料水が不足する町や適切な都市サービスが提供できない町が確実に出現すると懸念している。SPPは良い構想と思うが3つ質問がある。一つ目はどの組織が代表して出席するかと言う事、二つ目は誰がフォーカル・ポイントになるのかということ、3つ目はSPPに参加するとどのようなメリットがあるのかと言う事だ。

#### ⑥ラオス

政府内に全国計画研究所があるが、余り質は宜しくない。実際には十分な都市計画のノウハウが無いのが実態である。また、政府内部の調整、特に予算配分の調整が不十分であるために計画的な投資が出来ていない。現在、2030年までに最貧国を脱出するため貧困対策に集中しているが、計画的な財の配分に対する調整メカニズムが無いので、貧困な居住区の改善が進まない。私は水資源局の局長で国連ハビタットの協力を受けて必要な情報の収集や気候変動の影響の周知に努めているが、3人の違う大臣を調整する

のは困難である。誰が SPP のフォーカル・ポイントになるのか分かっていないが、是非とも計画づくりを支援して頂き、人々の生活の質の向上に何をすべきか、都市インフラや水供給のための明確な意思決定システム (Evidence-based decision making) の確立、気候変動に対する脆弱性のアセスメントなどに対応していきたい。(参考資料 5)

#### ⑦カンボジア

空間計画は産業の育成や環境の保全にとって不可欠な行政手段である。また経済開発拠点や国境域の開発軸を形成するためにも重要である。カンボジアは 2011 年に国家空間計画を策定したが、新しいシルクロード経済イニシアティブやアジアハイウェイ、南部開発軸、インフラ整備の強化と言った観点から、見直しを進めている。カンボジアの空間計画は第 3 次であるが、政治公約的色彩が強いので、5 年毎に経済成長、雇用、平等性、生産性等の観点から見直しをかける。国家、地域、基礎自治体、コミュニティと言ったレベルでのレビューが必要と考えている。また、空間計画の法制的位置づけについて検討せねばならない。カンボジアでは急速な成長が続いているが、一方で土地需給の逼迫、貧困削減の遅延、人材不足、都市・地方 (田舎) の変革と言った課題に直面している。是非とも SPP を通じて現状を改善していきたい。(参考資料 6)

#### ⑧まとめ (モデレーター)

本日は SPP コアメンバーの方々に御出席頂いたと理解している。先程から質問があったが、当面のフォーカル・ポイントは私が担うことになっているので、遠慮なく御連絡下さい。また、当面の会議には各国政府の担当者が代表して出席して欲しいと考えている。SPP のメリットについても、情報交換や学び合いだけではなく、具体的な支援体制について議論したいと考えている。これから 8 月の会議に向けて SPP のコンセプト・ペーパーを練り直していく。本日は、モニタリングの必要性や気候変動に対する対応などのコメントがあったので、検討して参りたい。8 月の福岡会議では、SPP 設立文書として各国が調印できるよう調整したいと思う。

